

- ◆ 北陸財務局及び当局が運営する「北陸地域連携プラットフォーム」は、平成28年11月29日、地域連携・地域貢献の一環として、様々な層の方々が参加できる「北陸地域創生フォーラム ～選ばれる地域になるために～」を開催。
- ◆ 当該フォーラムは、地方創生の実現に向けて地域の総力を結集し、また、地域に住む方々に地方創生を「自分ごと」として考えてもらうため、一般公開で開催(参加者約130名)。地域住民が地域の資源・魅力を認識し情報として発信することや、生きがいを持って働くことのできる「しごと」の創出など、北陸地域が魅力ある地域として認められるための方策を探った。
- ◆ また、北陸地域連携プラットフォームのこれまでの議論において、「若年層の意見が非常に重要である」との声が多く聞かれたことから、金沢大学附属高等学校の生徒に「地域課題研究」の成果を発表する機会を提供した。

1. 成果事例の概要等

1. 金沢大学附属高校生徒によるプレゼンテーション



北陸新幹線開業後、金沢に集中している賑わいを加賀地域にも波及させるため、「マダム」をターゲットにした観光ツアーを企画することで、加賀地域に賑わいを!



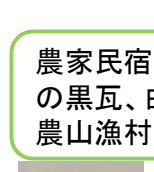
3. パネルディスカッション



「ななお創業応援カルテット」は、金融機関、行政、商工会議所、日本政策金融公庫4つの団体のどこでもワンストップで相談。「創業したい」、「地域を盛り上げたい」人は多く、実績の38%が女性。若者をどうキャッチしていくか。(七尾商工会議所 大林重治会長)



【コーディネーター】
日本政策投資銀行
鈴木博竹北陸支店長



農家民宿「春蘭の里」には多くの修学旅行生や外国人が来訪。能登の黒瓦、白壁の住居景観を守り、高齢者を体験講師として伝統ある農山漁村を次世代へ。後継者が課題。(能登町 高雅彦副町長)



2. 基調講演

「地域の資源を活かして魅力的な町に
～日常のありふれた生活を新しい視点で～」
地域活性化センター 畠田千鶴広報室長



普段見慣れているものが地域資源になることに、第三者や若者の方が気づいていることも多い。もともと地元にあるものをどうやって域外にアピールするか。地域資源の本質は変えずとも、その時代に合うものにしていくことが地域のイノベーションに通じる。



地域資源を発掘して発信しようという地元愛が必要。それが誇りになると随分違ってくる。本物の魅力、本質を忘れず維持していくことが重要。(金沢大学人間社会学域 山岸雅子地域創造学類長)

「ウォームハート、クールヘッド」が重要。地域資源の他との比較や説明をしっかりと。北陸の人は奥ゆかしいので、もっと魅力のPRを積極的に行ってもよいのでは。(地域活性化センター 畠田千鶴広報室長)

2. これまでの取組の成果等

参加者からの評価は**おおむね好評**(アンケートでは「満足」、「まずまず満足」とする回答が7割)。特に**金沢大学附属高校生徒によるプレゼン**に対しては、「斬新で面白い」、「大人には無理!」などの高評価。

3. 今後の課題と北陸財務局の対応

＜今後の課題＞ 地域に住むすべての方々に地方創生を「自分ごと」として捉えていただくため、積極的に情報発信を行っていく必要。

＜今後の北陸財務局の対応＞

様々な層(若年層、女性層など)に当事者意識を持っていただくための取組を推進。